

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。アンケートの結果と、その結果を基にした本校教職員の自己評価の結果をまとめましたのでお知らせします。今後、これらの結果を学校運営や教育活動に反映させ、教育の質の向上、よりよい学校づくり、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでまいります。

令和5年2月

校長 堀川 勝 祥

令和4年度

花岡小学校グランドデザイン

花岡
が好き

学校教育目標

自ら学ぶ子 心豊かな子 たくましい子の育成

花岡小
が好き

めざす学校像

楽しい学校
美しい学校
チャレンジする学校

花岡小プライド

ひと・もの・ことに主体的にかかわる力を
育み、よろこびに満ちた居場所をつくる
志：「自分たちの学校は、自分たちでつくる」

めざす教師像

明るい教職員
信頼される教職員
努める教職員

めざす児童像

自分の考えをもち仲間と
考えを深め学びを楽しむ子

ふるさとを愛しまわりの人や
ことのために行動できる子

めあてをもち健康・
体力づくりに励む子

自ら学ぶ子の育成

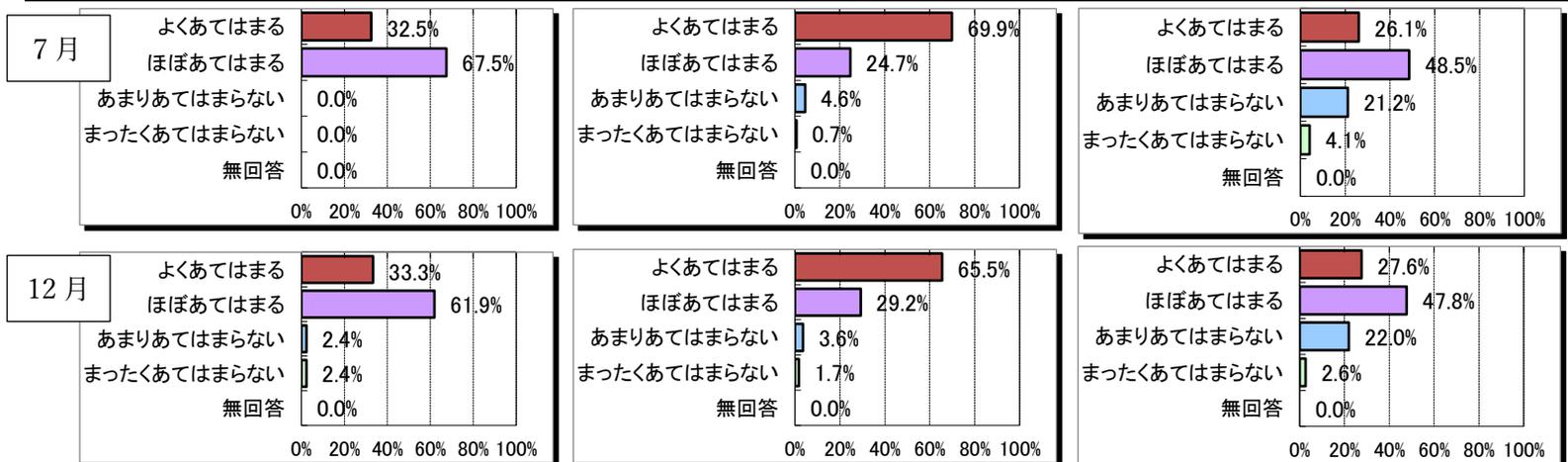
心豊かな子の育成

たくましい子の育成

自ら学ぶ子の育成(まなび)

【質問1】

左：教職員	タブレットを活用した授業実践や家庭学習の取組の工夫は、児童の主体的に学ぶ姿につながっている。
中：児童	タブレットを活用し学校や家で学習をすると、勉強がよく分かり、やってよかったと思うことにつながりましたか。
右：保護者	タブレットを活用した授業や家庭学習は、お子さんが進んで学習することにつながっている。



教職員評価：3

自ら学ぶ子の育成【まなび】

児童が学ぶよさを感じ、自ら学び続ける態度を育成するため、後述2つの活動を行いました。

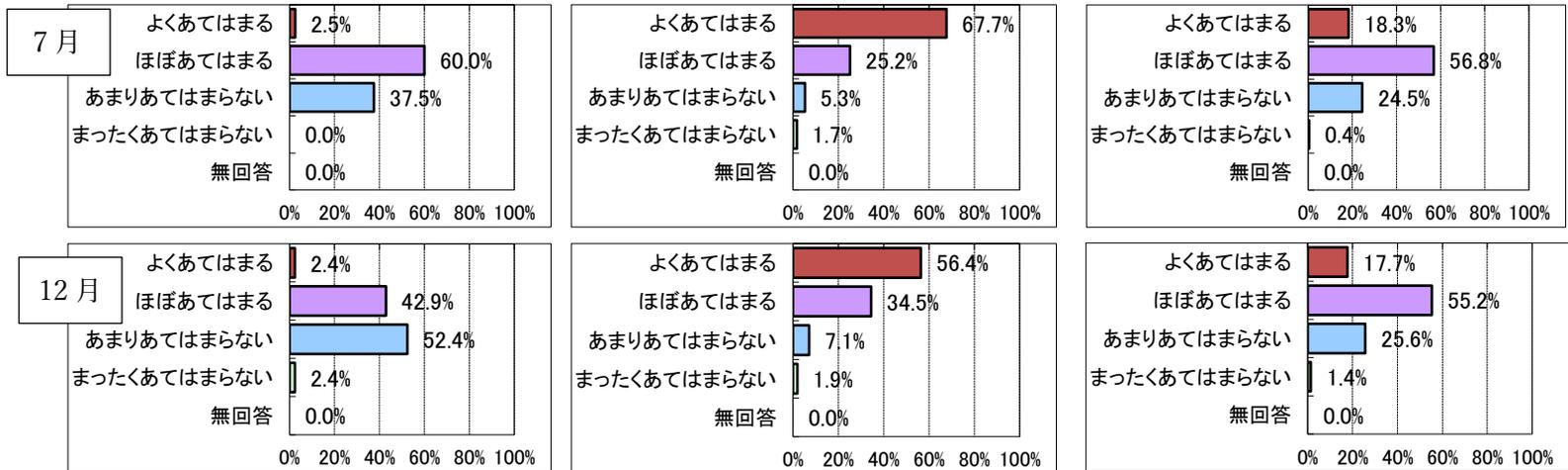
- タブレットを活用した授業実践の工夫
- 自主学習充実のための取組（自学ノート展2回実施、タブレットでの自主学習の展示、自学ノートの掲示による共有）

アンケートの結果、教職員・児童で肯定的評価が90%以上、保護者でも肯定的評価が75%以上と、3者とも一連の取組の効果を感じることができていると言えます。要因として、(1)については、タブレットを使つての考えの共有、学びの蓄積、調べ学習、資料の作成などを授業において実践したことにより、より効果的に学習することができているという実感が児童にも教職員にもあると考えられます。また、(2)については、自学ノート展の実施により自主学習を共有する機会が増え、自主学習の幅が広がり、学ぶ楽しさやよさを感じられたことなどが考えられます。今後も、自ら学び続ける児童の姿をめざし、取組を工夫していきます。

心豊かな子の育成(こころ)

【質問 2】

左：教職員	本校の児童はすすんで、相手を見ながら挨拶をしている。
中：児童	あなたは、すすんで、相手を見ながらあいさつをしていますか。
右：保護者	お子さんは、家庭や登下校（地域）で、進んで、相手を見ながら挨拶をしている。



教職員評価：1

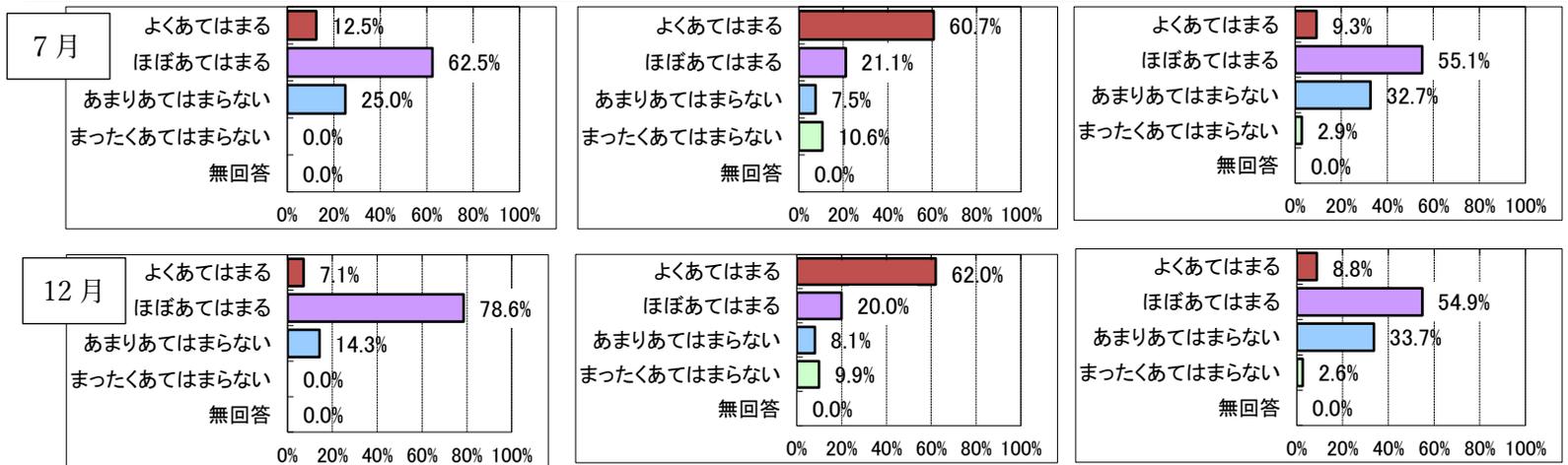
心豊かな子の育成【こころ】

「相手を見て」「進んで」の2つを花小挨拶ポイントとして、学期に1回(年3回)挨拶週間を設定し、自分の挨拶について振り返る機会をつくり、挨拶への意識を高めていけるように取り組んできました。また、学年や学級等における日々の声かけや児童による挨拶ボランティアの活動を継続してきました。さらに、運営委員会の取組の工夫によって、朝の挨拶が活発に行われるようになってきました。7月と12月のアンケート結果を比較すると、教職員の否定的評価が増え、児童・保護者は肯定的評価の方が多という結果となりました。校内の限定的な場面では挨拶ができるようになってきているので、その場面をもっと広げていってほしいという教職員の捉え方からくるものだと考えます。今後も、地域や保護者の方々と連携しながら、挨拶をすることへの意識を高めていけるよう校内での取組を改善していきたいと思ひます。そして、挨拶を通してふれあい、人とつながることのできる子どもを育てていきたいと思ひます。

たくましい子の育成(からだ)

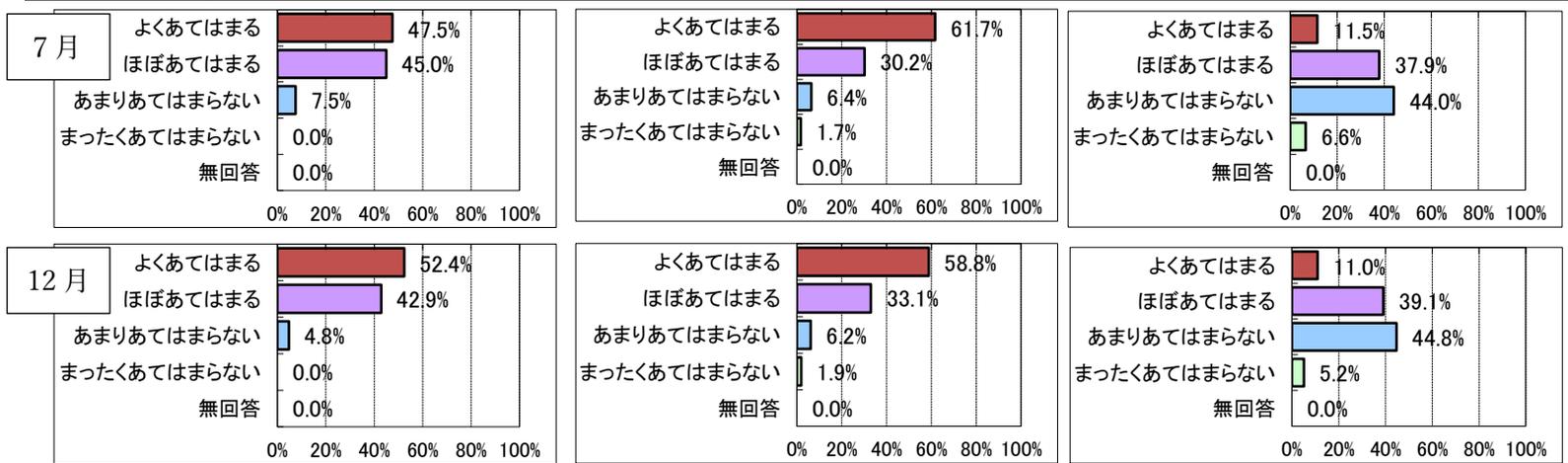
【質問3】

左：教職員	児童に柔軟性の向上を実感させたり、根気よく取り組んだりすることができるようにした。
中：児童	あなたは、長座体前屈をしたときに、つま先に指がとどきましたか。
右：保護者	お子さんは、柔軟性が高まっている、または高まってきた。



【質問4】

左：教職員	よりよい歯磨き習慣を身に付けさせるために、「ワ歯菌の日」に「奥歯のかみ合わせ・きわ」が磨けているかを振り返る機会を給食後に設定した。
中：児童	あなたは、歯みがきの際に、「奥歯のかみ合わせ・きわ」を意識してみがくことができましたか。
右：保護者	お子さんは、歯みがきのとき、奥歯のかみ合わせやきわを意識しながら磨いている。



教職員評価：3

たくましい子の育成【からだ】

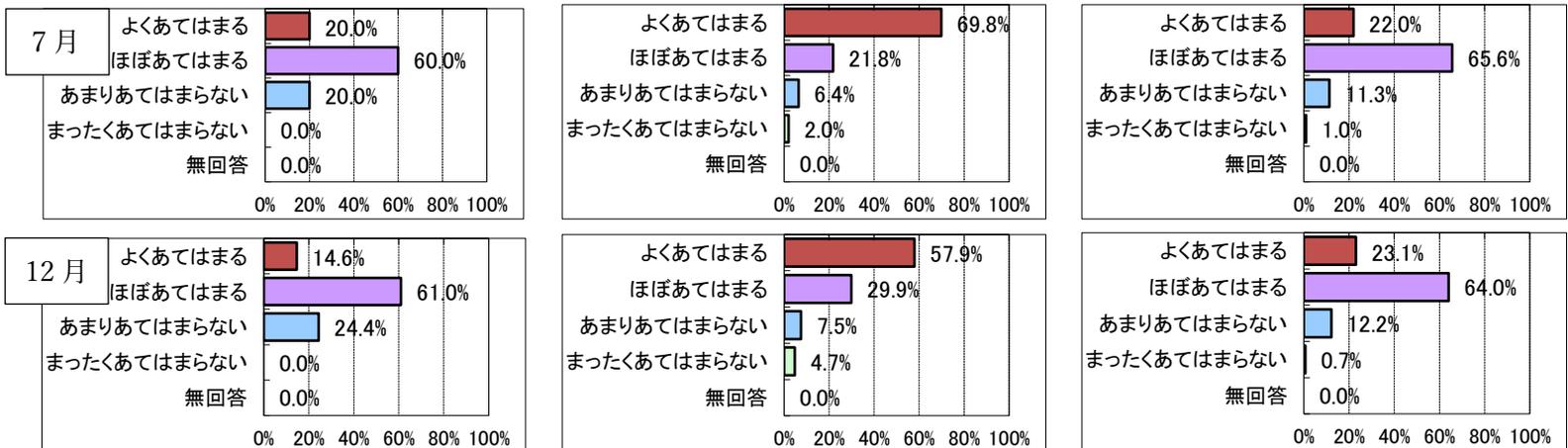
今年度の「のびスト」は、児童に取組の目標と成果を分かりやすくするため、柔軟性の段階を画像で提示し、自分の柔軟性のレベルがわかるようにしました。定期的に自分のレベルを知ることで、柔軟性の向上に繋がるようにしました。アンケートでも、教職員の肯定的評価が75%・児童の肯定的評価は80%以上と、取り組みの成果が出ていると思います。ただ、保護者の肯定的評価は約60%だったので、今後は家でも子どもたちが柔軟運動に取り組むような工夫をしていきたいと思っています。また、柔軟運動のやり方や重要性を、プロフェッショナルやスポーツ選手などの方から学ぶ機会をつくれたら良いと思います。

歯の健康に関しては、保健委員会の調査から、「ワ歯菌の日」には「奥歯のかみ合わせ・きわ」を意識して磨くことができている児童が9割を超えています。ただ、アンケートの結果から常時意識して磨けていると思っている児童は6割程度だったので、「ワ歯菌の日」以外の日も意識して磨けるように、教員による声かけやみかじめ、磨き方の質を高める取組が必要だと思っています。また、保護者の肯定的評価は、5割弱と低い結果となっています。「歯ッピー・くーねる・のびスト」や、保護者に好評だった「歯石染色剤」の実施を今後も継続し、学校での取組を家庭に広げていきたいと思っています。

組織・地域の力の結集

【質問 5】

左：教職員	学校・地域連携カリキュラムを活用し、地域の資源を生かした体験活動に取り組んだ。
中：児童	地域の人に教えてもらい、地域のことを学ぶ学習は楽しいと思いますか。
右：保護者	学校は、地域の人から地域のことを学ぶ学習を大切にしている。



教職員評価：4

組織・地域の力の結集

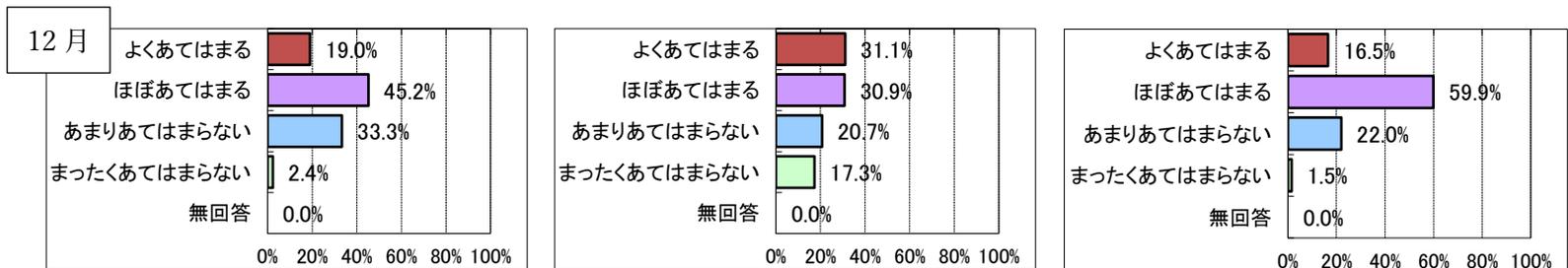
学校・地域連携カリキュラムの作成により連携内容が明確になっており、組織的に取り組む意識が向上しています。学校運営協議会や全員参加のCS推進委員会の話し合い、プロジェクト部会の活動は、目標達成のために有意義でした。また、花ボランティアや自治会での学校だよりの回覧など、地域の力を生かす活動を続けていることは成果です。地域人材によるゲストティーチャーやコミュニティ・サポーターの取組が各学年に計画・実施され、子どもたちにとって深まりのある学習を行うことができました。

今後も、学校・地域連携カリキュラムに位置づけられた活動の内容、方法、時期を見直し、地域の力をより生かすようにCS活動を推進したいと考えています。

異校種連携

【質問 6】

教職員	異校種間連携（幼保・中学校・高校）を意識した教育活動を行った。
中：児童	あなたは、幼稚園・保育園、末武中学校、華陵高校などの他の学校との学習や交流活動に一生懸命取り組んでいますか。
右：保護者	学校は、幼稚園・保育園、中学校や高等学校と協力した教育活動を行っている。



教職員評価：2

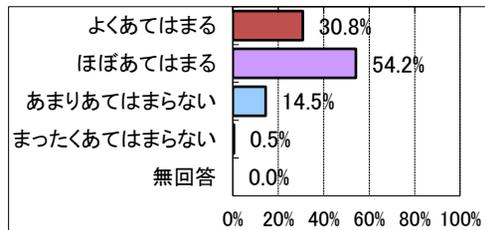
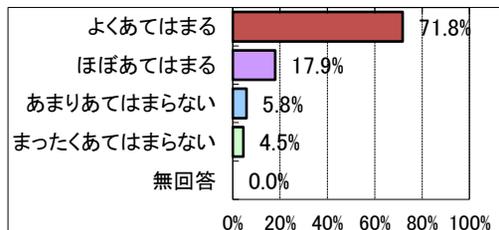
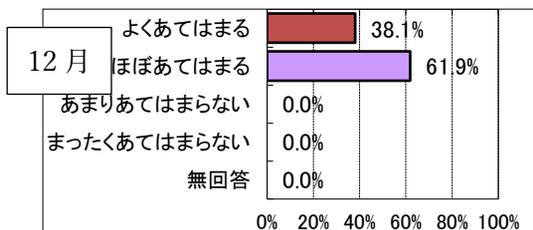
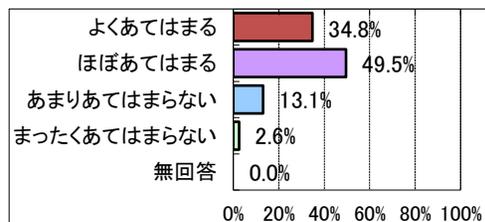
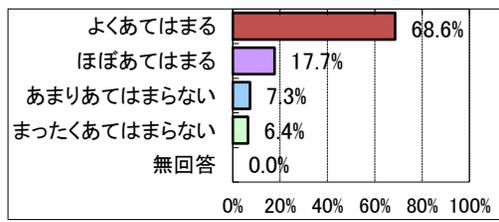
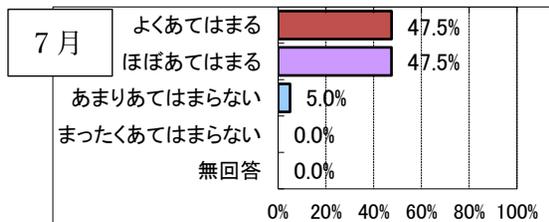
異校種連携

どの学年でも、これまで行ってきた異校種間連携は継続しながらも、今年度は新たに、高学年で末武中学校の教員による毎週の算数の授業や睡眠学習の実施、華陵高校のALTや留学生との交流活動など新たな取組を行いました。児童は、他校の先生や生徒との交流を楽しんでおり、充実した時間を過ごすことができている。しかし、異校種と連携する回数は、年間を通して数える程度しか実施できない現実もあります。今後も、可能な範囲で異校種間連携を継続し、児童のよりよい成長の一助としていきたいと考えています。

安心・安全の確保

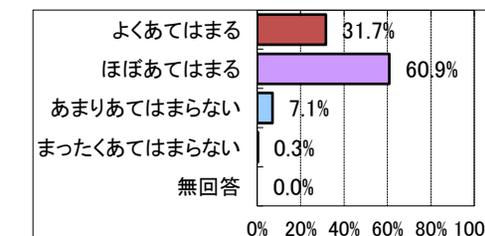
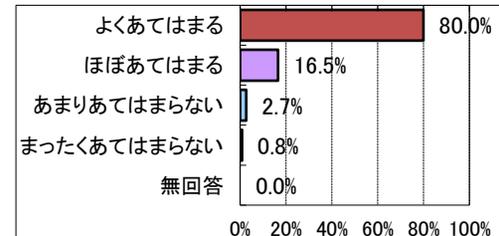
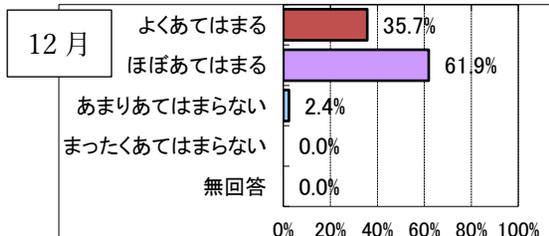
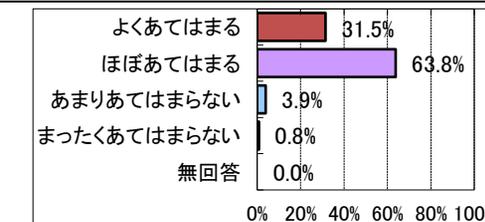
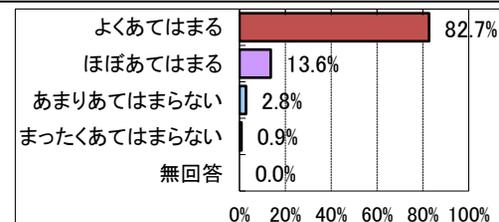
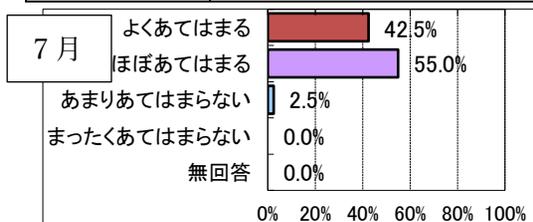
【質問 7】

左：教職員	教育相談アンケートをもとに子どもたちとの会話を増やしたり、教育相談箱について周知したりするなど、児童が相談しやすい環境づくりをしている。
中：児童	教育相談アンケートや教育相談箱など、困ったときに相談する方法を知っている。また、相談できる人がいる。
右：保護者	お子さんは、家で学校の話をしたり、悩みを相談したりしている。



【質問 8】

左：教職員	平時から危機管理の意識をもって児童への指導を積み重ねている。
中：児童	あなたは、防犯ブザーを身につけたり、交通ルールを守ったりと、自分の身を守るために自分で気をつけていますか。
右：保護者	学校は、交通指導や避難訓練等、お子さんの心と体の安心・安全の確保に向けて取り組んでいる。



教職員評価：4

安心・安全の確保

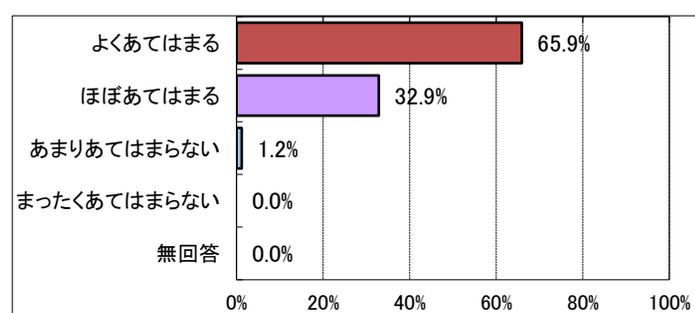
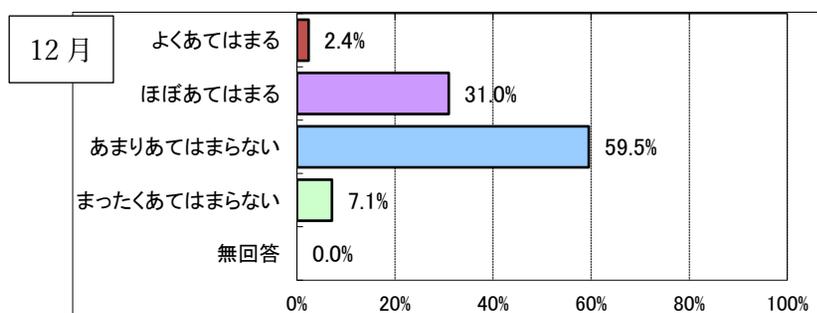
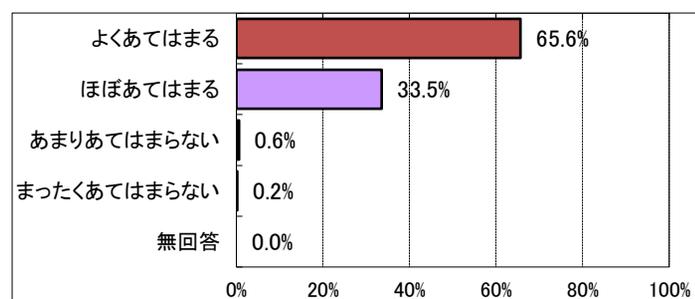
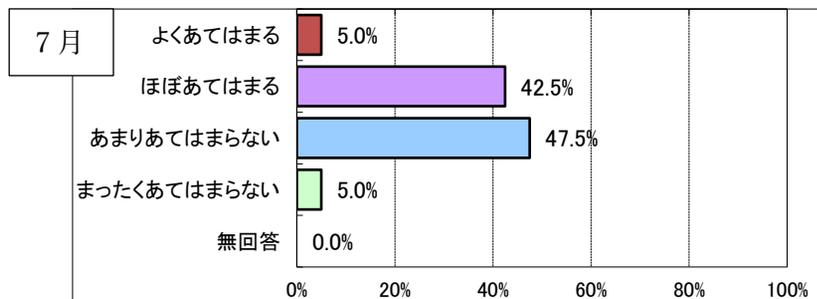
毎週実施している教育相談アンケートをもとに子どもたちとの会話を増やし日々の変化を見取りながら、いじめの予防的な取組や問題の早期発見、迅速な対応を進めてきました。いじめは絶対に許されないという共通認識を高めながら、安心感・所属感・有用感・そして規範意識のある学校生活づくりを推進していきます。

警察署や消防署をはじめ、外部講師を招聘した交通指導や避難訓練等を充実させており、肯定的評価も多くなっています。学校で想定される様々な緊急場面に対応できるよう、ヒヤリハットの事案等を適時取り上げながら教育活動や研修を行い、学校全体としての危機管理能力を高めていきます。

業務改善

【質問 9】

左：教職員	業務改善に向けて、具体的な取り組みを実行し、成果を感じている。
右：保護者	欠席の連絡方法や時間外・休日の電話、自動車での来校などの学校からのお願いについて協力している。



教職員評価：2

業務改善

保護者の皆様のご協力により、欠席の確認などスムーズに行うことができます。時間外・休日の電話、自動車での来校におきましても、ご理解・ご協力いただきありがとうございます。また、本年度は少しずつコミュニティ・サポーターの募集も行い、学習への支援をお願いしました。おかげさまで、より細やかな対応ができたように思います。ご協力をお願いしたいことは、できるだけ早い時期に皆さんにお知らせするように心がけていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

教職員の業務改善に関しては、本年度、理科の研究大会に向けての研修や会議の時間を必要としました。また、コロナ感染症に伴う措置など、臨時的な学級事務や会議にも労力を割いているのが現状です。本年度は毎学期教職員から出た反省や気づきをもとに各プロジェクトで改善案を出し合いました。職員会議や毎週の打ち合わせの時間の持ち方など具体的に改善を進めている部分もあります。また、11月末に業務改善についての研修を行い、全教職員が業務改善に向けての意識を高めているところです。来年度は生活時程の見直しなども行い、児童への学習の保証を確保しつつ、業務の精選に努めて参ります。